

令和8年度 京都大学特色入試  
解答又は解答例等及び出題意図

《教育学部》

課題

- ・一義的な解答例等を示すことが適切でない問題については、出題意図のみを示しており、解答例等を示したとしてもあくまでも1つの解答例であり、これに限りません。
- ・「解答又は解答例等及び出題意図」についての質問および問い合わせには対応いたしません。

【出題意図】

問 1

傍線部は、問題文 A におけるキー概念のひとつである。徴兵や立法権を例に、義務と権利が不可分であるということを本文に即して読み取り、定められた字数で記述することを求める。

問 2

問題文 A の筆者は、戦前の国家体制の「滅私奉公」、戦後の「私生活優先」の傾向の両方が問題であり、それらのいずれでもない形での「公」と「私」の関係のあり方を考えるのが重要であると述べている。これらを適切に読み取り、定められた字数で記述することを求める。

問 3

問題文 B のデータ 1 とデータ 2 が示していることを要約し、それらを適切に解釈し、定められた字数で記述することを求める。幸福意識の上昇は、物質的生活水準の向上に伴うものであるとも解釈できるが、以前に比べて人生への期待値を小さく見積る人が増えた結果であるとも解釈できる。これら以外でも論理的な解釈が導けていれば評価する。

問 4

問題文 B の筆者は、現状は耐え難いと、ある問題が内的な必然性を伴って捉えられたとき、真に自身の主体を賭けた実践がありうると論じている。このことを適切に読み取り、定められた字数で「やむにやまれぬ根拠」を説明することを求める。

問 5

問題文 B の「解放ないし変革」という抽象度の高い概念を、研究の営為という具体性の高い問題に置き換えたうえで、本学教育学部で受験者が学び、研究しようとしていることを念頭に、それが個々の受験者にとっていかなる「やむにやまれぬ根拠」「内的な必然性」に基づくものであるかの説明を求める。